

家の 中 まで、 森の中。



大谷智子さん

働き者のダンナ様の妻であり、関西の大学に通う息子さんと、地元の高校に通う娘さんの母。……とは思えぬ若々しさ!



アイランド型でスッキリ。下には収納スペースがたっぷり。

結露もゼロであったかな回転式二重ガラスの窓は、智子さん一番のお気に入り。窓の外には、それぞれに絶景が。

原生林とも、息の合う家。

「リスや、キツネや、鳥も来るし、あそこには二面に紫色の花が咲くんですよ」
居間に続く階段脇の大きな窓の外にはワイルドな岡山原生林が広がり、居間の東窓からは、お隣の庭の見事な桜の借景が。そのまま視線を南側の大窓に移すと、今度は銀色に光る札幌ドームまでの市内を見晴らす眺望が展開。思わず「札幌 絶景美術館」とでも名づけたくなる立地と設計に、いやはや、ため息の連続です。

「主人の転勤で関西から札幌に来て、最初は2〜3年で戻るつもりがすっかり気に入って、結局家を建てることに。北海道は、他の土地とは空気が違いますね。気持ちが良いって、何だかホッします。この家ができてからはなおさらそうで、ここに居るだけでホッとします。建てて7年ですが、この家の全部が大好き!床は道南のブナ材で、国産無垢材をふんだんに使ってもらいました。深い色にたくて塗ってもらったのも自然塗料だし、壁は家族で塗った珪藻土。家自体が呼吸してるから、家も生きてるんだな、私たちと一緒に呼吸してるんだな、って感じますね」と智子さん。

この家は、言ってみれば家に変身した。住める森。なるほど、原生林とも、動物たちとも、すんなり調和するワケですね。

一緒に年を重ねてく。
一緒に味を増してゆく。

「家は10年からは勝負。木の色も深まり、所々傷も付き、徐々に味を増していくんだと思います。直して、使って、ずっと付き合っていく。それが楽しみです」と、使い捨て社会とは全く逆思考の智子さん。この家にしてこの言葉ありですね。

「どのハウスメーカーにもピンと来なかったのに、西條さんのHPを見て自然素材へのこだわりがビビッと来て即決」の所以は、やはりエコのセンスが合致したから?「エコ?うーん……特に意識したことはないですね……」

自ずから然るべきもの。自然。さすが、毎日森を呼吸していると、無意識のうちに、自然とエコさんになれるんですね……!

この記事の続きは、HPでお楽しみください。
<http://www.saijo-d.com>

断熱材の前世も森です。

大谷さんのお宅では、道産天然材とともに、古新聞リサイクルの断熱材を使っています。新聞紙の原料はパルプ、つまり木材。地元で読まれた新聞紙を江別の工場で加工するこの断熱材は、森の恵みを捨てることなく最後まで活かす有効手段。物理的に暖かいだけでなく、心も温くなる素材です。

エコデザイナー 西條 正幸



BiO+
無 Bioプラス西條デザイン

◎企画・設計 有限会社 Bioプラス西條デザイン
本社:〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581